

令和3年生駒市教育委員会第7回定例会会議録

1 日 時 令和3年7月26日(月) 午前9時30分～午前11時20分

2 場 所 生駒市役所 401・402 会議室

3 審査事項

- (1) 報告第11号 令和3年度幼稚園・保育園訪問の結果について
- (2) 報告第12号 令和3年度小学校・中学校訪問の結果について
- (3) 議案第27号 令和4年度使用中学校教科用図書採択について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委 員	レイノルズあい
委員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥

5 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	坂 谷 操	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	前 田 伸 行	学校給食センター所長	財 満 直 也
こども課長	松 田 悟	こども課指導主事	川 田 奈 津 子
こども課指導主事	松 本 裕 美	子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂
生涯学習課長	清 水 紀 子	図書館長	西 野 貴 子
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	石 田 昌 代
教育指導課課長補佐	花 山 浩 一	教育指導課課長補佐	日 高 興 人
こども課課長補佐	大 窪 奈 都 子	こども課課長補佐	福 山 清 美
生涯学習課長補佐	井 川 啓 一 郎	教育指導課キャリア教育プランナー	尾 崎 え り 子
教育総務課(書記)	牧 井 望	教育総務課(書記)	吉 川 優 香

6 傍聴者 6名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・幼稚園・学校再編に係る地域協議会からの意見書について、奥田教育こども部長から説明

<参照：資料1、資料2>

(質疑)

レイノルズ委員：各学校及び各園のそれぞれが丁寧に進めていただき、意見書がまとまってきたのだという工程がよく理解できた。現在は壱分幼稚園、なばた幼稚園、生駒台幼稚園からの意見書を待っている状態である。今後はいただいた意見書を基に協議を進めていくことになると思うが、大体の流れが知りたい。

奥田部長：今後のスケジュールについては地域協議会でもお尋ねがあり、早くて年内に方向性を決めていきたいと回答した。そのために今後教育委員会では、全ての意見書が提出される第8回定例会で内容を御審議いただき、その後開催する総合教育会議で協議していただく。そこから、教育委員会の方向性を決めていただき、年内で決まればと考えている。

・GIGAスクール構想をはじめとする令和の日本型教育モデル事業について、日高教育指導課課長補佐から説明

<参照：資料3>

(質疑)

飯島委員：1の個別最適な学びの(2)について、AIによる個別の熟練度診断・対策のアプリの試験的導入とあるが、AIは現在様々なことに利用されているが、学校教育の中でどのような部分にAIのプログラムをするのか、具体的に名称やアプリケーションの内容等を教えてほしい。

前田課長：今現在検討しているのは、COMPASS社の「Qubena」というAIソフトである。5教科入っているが、学校から基礎学力を身に付けさせたいという相談を受けていた算数・数学で主に利用する。算数・数学では、AIの診断によって子どもがつまづいた箇所から、それに関連する問題が出題されるという仕組みとなっている。他の教科についてはソフト自体が開発段階ということもあり、最も開発の進んでいる算数・数学で活用していく。

古島委員：「Qubena」の費用はどの程度であるか。無料で試験導入できるのか。

前田課長：基本的には1人月額600円であるが、試験導入からの使用ということも含め、期間や人数によって変更の可能性があるので、現在交渉中である。

- 古島委員：今現在導入しているeライブラリとは、並行して使うのか。
- 前田課長：eライブラリは全校が対象となっており、5年間利用する。それとは別で、子どもたちの個別最適な学びを目指して導入を考えている。
- 伊藤委員：2校にソフトを導入する前に、さらに小規模である何人かの児童・生徒に実験的に行ってもらうような試行はあるのか。それとも突然学校に入れるのか。
- 前田課長：朝の学習活動等、個人ごとではなく学校から一斉に子どもたちに向けて使用したい。また、どれだけ個に応じた学習ができるのかという検証も兼ねているため、個人より学校単位で進めている。
- 原井教育長：対象の学年は何年生であるか。
- 前田課長：小学校は5年生と6年生、中学校は1年生から3年生である。
- 飯島委員：GIGAスクール構想をはじめとする令和の日本型教育モデル事業として、個別最適な学びと協働的な学びがある。これらの項目は2つであるが、学校の教育活動としては個別最適な学びの時間と、協働的な学びの時間は区切るものではないと思う。1つの活動の中に2つの学びがあり、両者が関連付くような場を作っていたきたい。
- 伊藤委員：個別最適な学びの(1)の②空き教室を活用した適応指導教室の開設について、現在のいきいきほっとルームは中学生を中心に使われているとのことであるが、生駒市は縦に長いので、北部の目の前の学校にも行けない子供が、南にある遠くの学校に行けるのか。あまり現実的でないように思う。そのため将来的には北・中央・南と3か所に教室を置くことを検討いただきたい。また、現在のいきいきほっとルームは小学生ではなく、中学生が中心となっている。小学生向けではない理由が知りたい。
- 前田課長：基本は中学生となっている。その経緯としては、登下校の問題があり、1人で通学ができる中学生が中心となっている。小学生は保護者の送り迎えが必要である。相談して一部来ている方もいるが、今現在は安全の確保ができる中学生が中心となっている。
- 原井教育長：駐車場が広く、それに充てる部屋数も多いので生駒南第二小学校を選んでいる。
- 坪井委員：協働的な学びの②生駒小学校6年生のプログラムについて、内容を詳しく教えてほしい。
- 日高課長補佐：以前からSDGsの教育については、生駒小学校の6年生の担任の先生から相談を受けていた。それに対して、学校の持つイメージと教育指導課の持つイメージのすり合わせがまだ細かく出来ていない状況である。近日中に学校に訪問し、互いのイメージの共有をする予定である。その後、新しい形のものを作っていくたい。現在はそういった段階である。

- ・令和3年度幼稚園・保育園訪問の結果について、松田こども課長から説明
＜参照：議案書 p 1～6＞
(質疑)

伊藤委員：コロナ禍において、様々な新しい取組を行わなければならなかったり、地域との繋がりも大切にしなければならなかったりと大変であるだろう。その中でも、タブレットが導入されたことにより非常に授業風景が変わったり、実技の教科で想像以上にビデオカメラが活用されていたり、子どもたちの能動的な活動が増えているように感じた。塾でも講義型は一切しないというところが出てきているように、子どもの主体的、能動的な学びの形を作るのが可能であるということが徐々に分かってきている。そのため今後も、その割合を増やすように取り組んでいきたい。他方で、あまりタブレットを活用していない学校も見られたので頑張っていたいただきたい。また、個別最適な学びについて、子どもの学習速度が異なるためテストや課題が早く終わった子どもが時間を持て余しているという意見が地域から出ている。eライブラリや教材等を活用して子どもたちが学校で手持無沙汰にならないよう頑張っていたいただきたい。また、学年が上がるほど、地域や保護者との繋がりが希薄になっていきやすい。子どもが親に伝えることが少なくなっていくと、保護者も学校と離れてしまうし、地域も入り込みづらくなっていくのだと訪問で実感した。今後、コミュニティスクール等の取組で解消されると良いと感じた。学校は地域から入り込みづらい場所であるため、学校から繋がりを求めていただきたい。地域の方というのは、子どもたちのために見守り活動やイベント等を行っている。地域がいかにか子どもたちを支えているかを意識していただきたい。管理職の方は見えてきましたとおっしゃっていたので、授業をしている先生にも伝わればと思う。

審議結果 【報告のとおり承認】

- 日程第4 報告第12号 令和3年度小学校・中学校訪問の結果について
・令和3年度小学校・中学校訪問の結果について、山本教育総務課長から説明
＜参照：議案書 p 7～20＞
(質疑)

飯島委員：端末があることによってできるようになった校務はあるのか。

前田課長：学校評価アンケートのような統計を取るような業務については、業務が早くなったと報告を受けている。成績処理等についてはまだ検討している段階である。

坪井委員：保護者が子どものタブレット端末からアンケートを行う等、紙を無くしていくことは検討しているのか。

前田課長：そのようなことも考えているが、IDとパスワードは子どもたちの財産であるため、保護者がいつでもログインできる状態にするのは、気になる点である。ただ、保護者がタブレットでアンケートを答えられるようになると学校の処理が早くなるので検討していきたい。

原井教育長：メールを使ってアンケートを行っている学校もある。

飯島委員：学校によっては、保護者が子どものIDを使ってログインするということもあるようだが、保護者のIDとパスワードが、子どもとは別に設定されているところもあるようだ。保護者の権限とお子様の権限を区別するシステムもある。すぐに導入はできないかもしれないが、将来的には保護者の権限とお子様の権限を区別することのできるように検討していただきたい。

花山課長補佐：今現在奈良県ではGoogleのアカウントを使用したものを利用している。eネットは奈良県の共通となっている。その中ではまだ保護者にIDとパスワードを作るのは止められている。今はまだ全教師と児童、生徒だけでアカウントの管理が大変という実情がある。そこに保護者の管理もしなければならぬというのはなかなか難しい。

レイノルズ委員：報告書について、各学校の取組の特色や課題が分かりやすくまとめられていて良い。各学校の大事な情報が記されていると思う。これを参考にし、今後の生駒市の教育のあり方を検討していきたい。

神澤委員：スクールカウンセラーについて、複数の学校の先生から、非常に有効に使っていただいているが予約がいっぱいであると伺っている。特に小学校のスクールカウンセラーは月に1回であるが、もっとニーズがあるので残念である。せっかくカウンセラーを派遣していただいているのに有効にカウンセラーも月に1回ではしんどい。小学校も中学校と同じ週1回でないと、現在のニーズと合っていない。スクールカウンセラーは、不登校だけでなく、虐待を含めた家庭内の問題や保護者の対応にも何割かの時間を割いている。さらに全国の不登校児童・生徒数は、一昨年は2万人増、去年は1万6000人増と年々増えており、生駒市も例外ではない。これ以上の事態にならないようスクールカウンセラーの充実をお願いしたい。

前田課長：今年度の小学校は月1.5回となっている。毎年非常に少ないと要望をいただくので、まずは月1.5回から活用状況を見ていく。また、適応指導教室の相談室も長期休暇の勤務回数を増やしている。一応増えてはいるが、今後も検討していきたい。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 議案第27号 令和4年度使用中学校教科用図書採択について

・令和4年度使用中学校教科用図書採択について、前田教育指導課長から説明

<参照：議案書 p 21～22、資料4、5、6>

(質疑)

飯島委員：教科書展示会のアンケートの中に、丁寧に採択したのに再び採択をする必要はあるのかとあるが、条文の中に採択の対象とすることができるという記述がある。採択をしなくても良いと受け止めることができる。採択は行わなければならないのか、各市町村によってしなくても良いのか、どちらか。

前田課長：採択替えを行うか行わないかは採択権者の判断によるとある。そのためまずは、採択替えの必要があるかどうかをここで審議していただきたい。その結果もし必要であるとなれば、もう一度歴史の採択を行う。

レイノルズ委員：採択替えを行わないということで良いと思う。アンケートにもあったように、昨年、審議を重ねて東京書籍が生駒市の教育に相応しいと自信をもって採択したのに、今年の4月から使われているものを変える必要がないと思う。また、学校側の混乱にも繋がるため、採択替えは不要であると思う。

伊藤委員：採択替えを行うかどうかを決めるために、各自治体に教科書が配られているということか。

前田課長：各採択地区に規模に応じた冊数で教科書が配られている。もし採択替えを行わないとしても、その理由を説明できるように協議してから判断するようにと奈良県から説明を受けた。そのため学校や教育委員会にも教科書を回覧し中身を見ていただいた。

原井教育長：中身を見た上で、現行を上回るものではないという意見でも結構だ。

伊藤委員：自由社の教科書は現行のもの比べると、因果関係や時代背景が詳しく記載されており、表現にも躍動感がある。そのため、大変読みやすく、子どもに興味を引くものであるだろう。そういった部分は他の教科書会社も参考にしていきたい点である。しかし、近代の琉球・アイヌ・韓国の同化政策についての言及が全くない点や、太平洋戦争へ突入していった経緯を正当化しているような記述が多い点、被害状況が日本人に偏っている点が気になる。さらに、沖縄戦の特殊性や悲惨さの言及がなく、当時の本土の中心にいた人の意見に偏っているのが明らかである。となると、いま私たちが求めている「戦争を繰り返さない」という教訓が得にくい教科書ではないかと考える。また、今後重視されていく、地域の歴史の学習を促すような記述が少ないのではないかととも思う。これらの理由から、採択替えの必要はないと考える。

飯島委員：太平洋戦争において、日本が被害者であると思わせるような記述が見られる。これは国民ではなく、当時かじ取りをしていた人たちの目線である。また、終戦翌年の4月に歴史の教科書を作る際、神話は載せなかった。それは、軍国主義や超国家主義など、戦時の思想に少なからず影響を与えたとされたからである。この教科書では、「古墳の広まりと大和朝廷」の後

に神話を登場させている。なぜここで神話を配置したのかの必然的な理由が、教科書の編集者の説明として示されるのではなく、読んでいる子どもたちに伝わるように記述される必要があるのではないか。また、「川中島の戦い」の後に「南北朝」や苗字ランキングが記載されている等、意図が分かりにくいという印象を受けた。さらに私が気になる点は、憲法等について、GHQから強制されてやむなく了承したような記載である。確かにその考えも完全否定はできないが、強制されたから変えなくてはならなかったというのは、法律やルールを守るということを子どもたち教える上でどうなのかと思う。子どもたちには、憲法や教育基本法等が良い法律か、良くない部分のある法律かを検討する目を持ってほしい。また、まだ評価を定めるべきではない現役政治家の施策を肯定的に「日本の進むべき道」と位置付けている点が歴史の教科書としては時期尚早であると感じる。このように自由社の教科書は、巻頭で歴史とは何かを子どもたちに考えさせる等良い点もあるが、採択されなかった他の教科書より問題点が多いため採択対象とするには無理があると思う。

坪井委員：子ども目線を重点的に考えると、巻頭の第1節から第4節の序章は他の教科書にはないような学習者目線の面白い内容だと感じた。ただし、教科書会社の独自目線での内容が多く、見慣れない表現も多い。さらに行間が狭く文字数も多いので、1ページでの情報量が多い。これらの点は学習者に負担を与えるのではないか。また、市内の中学校全8校中8校が現行の教科書を支持している。現場の先生の意見は重要視すべきである。さらに市民アンケートでも、第二次世界大戦についての表記について否定的な声が多く、採択替えを望まない声が多い。これらの点から、現行の教科書のままで良いと考える。

古島委員：第二次世界大戦の記述で気になる点が多い。他の教科書よりも細かく記載されているのだが、中学校の調査研究にもあるように、「支那事変」といったような聞きなれない表現が多い。これは学習者としては読みづらいのではないか。また、東京書籍と比較すると、学習指導要領にあるような主体的・多様な深い学びの機会が少ないのではないか。知識重視で情報量が多いように感じる。これからの子どもたちの学びを思うと現行のもので良いと考える。

神澤委員：私もやはり見慣れない言葉が多い点が気になる。子どもたちの誤解を招かないような表現をベースにした教科書を使ってほしいと考える。

原井教育長：皆様の意見を総括すると、自由社の教科書は現行の東京書籍を上回るものではない。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第6 その他

- ・8月の行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明
(質疑)

坪井委員：ビブリオキャンプとはなにか。

西野館長：キャンプと言っても山で泊まるというわけではなく、チェアリングという活動をしている方と共同で企画をしているものである。チェアリングとはお酒と椅子があれば、どこでもそこが街の居場所になるという街づくりやアウトドアの活動である。東京ではわざと街中に椅子を持ってきて、日常を街に持ち込むことで、知らない人と友達になっていくという活動が始まっている。これをベルステージにて行いたいという声があったため、今回はビブリオバトルをチェアリングで行うことになった。会社帰りを狙った金曜日の夜に、椅子とランタンを持って集まろうと呼び掛けている。

坪井委員：非常に面白そうな試みではあるが、告知はどうするのか。

西野館長：8月のいこまちと図書館のホームページで告知を考えている。

坪井委員：広報が月に1度になり、どうしても目に触れる機会が少ない。見逃してしまうと、せっかくの試みであるのにチャンスを逃してしまう。早めに分かりやすく提示していただくと、参加者も増えるだろう。頑張って周知していただきたい。

レイノルズ委員：16日の安全を確認する日は具体的に何かするのか。

前田課長：生駒市では熱中症の事故を受けて安全を確認する日を設けている。各学校で部活動の在り方や学校内の安全について再確認をする意識をしてもらう日となっている。例年は教職員向けの研修を同日に行っているが、今年は日程の都合上翌日17日となっている。

レイノルズ委員：大瀬中学校の事故から5年が経ち、教職員も当時と入れ替わった。1つの節目でもあると思う。改めて研修や意識作りを徹底していただきたい。また熱中症対策関連で、去年か一昨年に洋服に装置を付ける案があったように思うが、その後どうなったか。

山本課長：一昨年、1つの部活動での実証実験によりデータは取った。全校で導入できれば良いが、服に付けるとなると費用がかなり高くなり現実的でない。実証実験を行った会社がリストバンドのようなものを作ったが、それでも高い。生駒市スポーツ協会が窓口となり、希望する学校があれば取り組めるよう学校に周知はしたが、個人負担となるので普及は難しいだろう。

坪井委員：個人負担となる費用はどのくらいか。

原井教育長：リストバンドのようなものについては1つ9000円である。校長会で案内はしたが、個人負担となるとかなり高価なものになると思う。

坪井委員：機器の購入が9000円か。月額料金などはあるのか。

原井教育長：買い取りで9000円である。月額料金は無い。

坪井委員：ウェアラブルなものは年々身近になってきて、スポーツをしている方が普通に着用するようになってきている。今回のオリンピックにも使用されている。9000円は確かに高いが、今後安価になっていく可能性はある。高くても使用したい方もいると思うので、高いから辞めるということはないように引き続き取り組んでほしい。

山本課長：確かに流通すれば価格は下がるだろう。学校から強制もできないので、どのあたりで取り入れるといいのかを検討していきたい。

伊藤委員：どこからご案内をしているのか。

原井教育長：生駒市スポーツ協会だ。毎年行っている熱中症の研修については、8/17の午後から全職員対象に行う。午前中には各中学校代表の部活指導の先生にお集まりいただく会も行う。

坪井委員：中学校の部活動代表者会議について、自分たちの安全を確認するために子どもの参加も昨年お願いしたが、今年はどうか。

前田課長：子どもたちの参加はまだ考えていない。今年は特に密になるといけないので、部活動顧問も各学校1人にしている。本当であれば全部活動顧問職員に、部活動方針を徹底して守って欲しいというのを伝える会議であるので、今年は代表職員から他の部活動顧問職員にしっかり周知するようお願いしている。今回のこの研修については、子どもたちも参加して話し合うような内容ではないが、そういった会も今後検討したい。

原井教育長：5年経って、当時を経験した先生が少なくなっている中で、ホームページに掲載されている事故報告書にも必ず目を通すようにと校長会でも伝達した。教育委員会としても風化させないようにしたい。

飯島委員：8/10に生駒市史編さん委員会文化遺産分科会とあるが、市史編さんの分科会はいくつあるのか。また、分科会のスケジュールはいつ終了するのかを教えてください。

西野館長：編さん委員の下部組織として分科会は5つある。8/10をもって第1回の開催を終えたことになる。この活動は令和9年の出版を目指して取り組む予定となっている。

・令和3年度1学期のキャリア教育実施状況について、尾崎キャリア教育プランナーから説明

<参照：その他資料1>

(質問)

飯島委員：6月15日のリーダーシップ授業の欄にある画像について、子どもたちからアンケートを取ったものをテキストデータ化してテキストマイニングとして抽出したものか。K.H.コーダーを使っているのか。

尾崎プランナー：無料のWebサービスを使っている。事前にGoogleアンケートでデータを集め、Excelシートから表示されるものを使っている。

飯島委員：ユーザーローカルか。

尾崎プランナー：テキストマイニングというWebサービスである。

レイノルズ委員：リーダーシップ授業の内容を知りたい。

尾崎プランナー：事前に先生から、光明中学校の3年生の今年の目標は、後ろの学年に自信を持って背中を見せられるようになることだと聞いた。しかしリーダーシップという自信がない子が多いということだったので、リーダーシップとは何かということなど、目標に沿ったコンセプトで授業を行った。まず、今の3年生がリーダーシップをどのように定義しているのかを知るために、リーダーシップがある人の特徴や、リーダーシップと思えるキーワードをGoogleアンケートで調査した。その後テキストマイニングでまとめたものを見ながら、リーダーシップは実は過大評価されすぎていて、自分で決めて動くというフォロワーシップも大切である。前に立ってまとめるだけでなく、自分の得意分野を生かしていい影響を与えるのがリーダーシップであり、かつ、リーダーシップのある人に付いていくフォロワーシップも持ってほしいと講義した。

伊藤委員：この授業は1時間か。

尾崎プランナー：2時間だ。

伊藤委員：これは今後、他の授業等の何かに繋がるものなのか。それとも単体か。

尾崎プランナー：今回は道德教育のリーダーシップを学ぶという中で、外部講師として授業をした。この後どのように授業を展開するかは今回関係していない。しかし授業を行うにあたって、どのような道德教育をしているかについては事前に伺い、流れとして授業を作っている。

原井教育長：学校が行っている道德教育の中の1つとして、尾崎さんの授業を取り入れてもらっている。ここからまた継続して学校としてのリーダー性を育てる取組を行っていると思う。尾崎さんの今回の授業では、子どもたちの意識を変えるという部分を担っていただいた。

レイノルズ委員：6月17日のキャリア教育（未来思考と現在思考）授業についても、どんなことをしたのか教えてほしい。

尾崎プランナー：これから進路を考える上で、今の自分の置かれている立場から進路を選ぶか、2030年からどんな自分になりたいかを逆算して進路を選ぶか、短期的な視点と長期的な視点で進路を決めてほしいということ、生駒中学校の進路の先生からコンセプトとしていただいていた。未来から今をみると、現在から未来を考えることでは、同じような発想でもキャリアの描き方が変わってくる。また、SDGsでも未来逆算思考と言われているので、現在と未来の両方からの思考でキャリアを見つめるという授業をした。

原井教育長：私も授業を拝見していた。千葉にいるという設定で別室からオンライン授業を行い、その後それぞれの教室に向かったことで、子どもたちは驚き、積極的に質問等をして尾崎さんの話を聞いていた。

神澤委員：ハイブリッド型は実際行ってみてどうだったか。

尾崎プランナー：近くにいないはずのオンライン上の人が出てくるというのは、子どもたちから大変喜ばれた。小学校のSNSの授業でも、千葉から行っているように見せるため、校長室や会議室の背景を変えたり、子どもたちに姿を見せないように入ったりして取り組んだ。コロナ禍でリアルに人と会い、空気感を共有する機会が減っているため、出来れば学校に来てほしいという先生方からの思いもあったので、可能な限り行った。実際に行った方が伝わりやすいと感じたし、オンライン上で遠くにいると思っていた人が目の前に現れたことのギャップや驚きは、子どもたちの学ぶ意欲や興味関心を引くことができたと思った。

神澤委員：私もハイブリット型で行うことがあるがテクニカルなことである。ロールプレイングを使うこともあるが非常に難しい。リアルタイムで喋っている映像を別の教室で映すというのが今は特に多いが、学校によってカメラの有無や、やり方が違うので大変である。このようなやり方は現在過渡期であり、今後はこれが当たり前になる。子どもは慣れてくると、現在完璧であるといった掴みも上手いかなくなるだろう。カメラやマイクなどの最低限のツールが必要である等、技術的に乗り越えなければならない点もまだ多い。今後情報を共有し、良いやり方を築いていきたい。

尾崎プランナー：今回の場合は教育指導課に現地に来ていただき、オンライン授業のイヤホンから骨伝導で中継のような形で行っていた。ミュートにしている分からない各教室の声や空気感を補佐などに回ってもらい手伝わってもらっていた。しかしそれを今後もずっと続けるのは難しい。今後1つずつ課題を解決していきたい。

原井教育長：7月12日のあすか野小学校の内容も教えてほしい。

尾崎プランナー：あすか野小学校の5年生はキャリア教育で自己理解を進めていきたいと、5月から相談を受けていた。まず1学期は自分自身を知るために、どううときに自分が嬉しいか、怒るのかななどを自分の取扱説明書として冊子にもらうために、私の取扱説明書を例として制作し説明した。2学期は外部のゲストを呼んでキャリア教育のイベントを行う。このゲストにも取扱説明書を作ってもらおう。そこから、大人でも得意不得意や、怒ること、辛いことが当たり前になり、自分自身や周りの人がそれを知ることによって、コミュニケーションが円滑になるということを1学期、2学期を通して伝えたい。3学期はその学びが、将来にどう繋がっていくのかを、自分の得意分野を通して考えていくということをしたい。

飯島委員：その他資料1にある尾崎さんの取扱説明書はスライドであるが、冊子にして子どもたちに配布したのか。

尾崎プランナー：先生は冊子をイメージしているがスライド上見えやすいよう横にした。

飯島委員：子どもたちはすでに自分の取扱説明書を作ったのか。

尾崎プランナー：恐らく夏休み中色々考えて、2学期にも様々な大人の話の聞きながら少しずつ作っていくという形だと思う。

飯島委員：ページ数や発表時間などの縛りはあるのか。

尾崎プランナー：今のところ考えていない。

坪井委員：奈良先端科学技術大学院大学とのシンポジウムでもおっしゃっていた二小ロボについて聞きたい。

尾崎プランナー：生駒南第二小学校のデジタル図鑑プロジェクトについては、昨年2月、3月に校長先生からご相談を受けていた。キャリア教育も、地域との繋がりも、ICTも取り組みたいという話から、どんなことができるのか先生たちと話をしていた。そこで子どもたちが情報を集めてデジタル図鑑にすれば、地域の貢献に繋がり、さらに子どもたちが実践的にICTの活用方法を学ぶことができるということで取り組んだ。進めていく中で松田先生に出会い、システムを作っていた。1学期は5・6年生に、集めた情報をどのように入れるのか模擬体験をしてもらった。また、1年生から6年生までの縦割りで、15、6人のチームが10組できる。そのチームで実際どんなテーマで情報を集めるのかを決めてもらった。現在はほとんどテーマが決まっている状態である。その中で1年生から4年生がどんなことをしたらいいのか分からず、モチベーションが下がったということだったので、この学年のみ別途6月に授業を行った。デジタル図鑑の名前も、非常に多くの応募の中からニショロボくんと決まり、少しずつ自分たちが作っていくものとして愛着が湧いてきたのではないかと。このプロジェクトを通して、子どもたちのパソコンやICTへの障壁を下げていくことを行っている。明日生駒南第二小学校の先生方に、2学期以降実際に地域を巻き込んで情報を集めるにあたり、どのように進めていくか松田先生と話しに行く予定である。

レイノルズ委員：情報モラルとSNS活用授業は様々な学校や学年に広がってきているが、それ以外に関しては対象が限定的である。他の学校や学年にももっと広めたいが、尾崎さんは1人である。今後頻度を増やすためにどうしていくのか。

尾崎プランナー：私の授業は学校現場の思いが大きい。どんなに汎用化したものを作っても、先生方にニーズがなければ広まらない。継続していけるような授業を今後増やしたい。

原井教育長：先ほどの資料3がまさにそうである。今年度の生駒第二小学校と生駒小学校については、あくまでもモデル授業となるので、来年度以降尾崎さんにも人材ややり方を紹介していただきながら進めていきたいと考えている。

伊藤委員：確かにパッケージ化していくことも大切ではあるが、学校現場に入って行って、実際のニーズを聞き出してプログラムを作るということ自体のノウハウが最も大切ではないか。そういった人が生駒でも今後増えてほしい。

結果のプログラムだけではなく、先生たちからニーズを聞き出し、共同でプログラムを作るプロセスの大切さや、その際のコツなどを、先生方や地域の人々に伝えていただきたい。

尾崎プランナー：確かに各学校、各学年によってニーズは変わる。さらに毎年先生も変わる。私が考えるのは、現場の先生方が伝えていくのが最も広がる方法だと思う。

坪井先生：他の学校の先生に伝える方法はあるのか。

前田課長：尾崎さんはゲスト講師ではない。先生方には尾崎さんだったらどうするのかという目線で見ている。それを踏まえて自分ならどうするかを考えていただきたい。尾崎さんに全て任せるのではなく、先生方と一緒に考えてやっていただき、今後の参考にしていただき、授業力を高めてほしい。そしてその先生が市内で転勤したときに、他の先生に伝えていただきたい。

原井教育長：学校現場の主体性を大切にしていきたい。

坪井委員：生駒市の子どもたちは静かで受動的であるという印象を受けた。そんな中、活気がある尾崎さんの授業は非常にいいと感じている。先生が直接尾崎さんと繋がれるような環境になると良いと思う。

○閉会宣告

午前11時20分 閉会